

研究活動報告

中国「少子化対策の経験に関するセミナー」

2021年4月20日(火)、中国国家衛生健康委員会人口家庭司、中国人口与發展研究中心、国連人口基金(UNFPA)の共催で、「少子化対策の経験に関するセミナー(低生育率対応経験検討会, Seminar on Experiences of Responding to Low Fertility)」が、北京会場とオンラインによるハイブリッド形式で開催された。中国の少子化の状況と合わせ、世界、アジア、韓国、ベトナム、日本における少子化対策の状況が報告された。筆者は日本の状況について報告を行った。

中国では2021年に決定された第14次5カ年計画の中に、政府文書としては初めて「適度生育水平」、つまり適度な出生率という言葉が用いられ、これまで下げるものであった出生率が、適度な水準に保つべきものとなった。今回のセミナーはそのような状況を踏まえてのものであり、UNFPAの共催で、他国の経験を検討する、という趣旨ではあったが、中国政府が少子化に関するセミナーを行うのはおそらく初めてのことであったのではないかと思われる。加速する高齢化と合わせ、少子高齢化が本格化してきたことをうかがわせる。(林 玲子 記)

台湾人口学会2021年大会

2021年4月24日(土)、「ライフコースと人口の持続性」をテーマに台湾人口学会年次大会が台湾会場(台北・台湾国立大学)とオンラインのハイブリッド形式で開催された。午前中は台湾高齢化に関する林萬億氏による基調講演に続いて、「経済、社会、人口と健康に対する新型コロナウイルス感染症のインパクト」と題する国際シンポジウムが、午後には合計12の平行セッションが実施された。

国際シンポジウムは、米国・カルフォルニア大学バークレー校ウィンストン・ツェン准教授、韓国・ソウル国立大学チョ・ヨンテ教授、台湾国立大学李柏翰助理教授、シンガポール国立大学アンジェリック・チャン准教授、香港大学ポール・イップ教授、日本は筆者が、各国にいながらにして一同に会し、台湾人口学会会長の陳端容教授の司会のもと、それぞれの国の新型コロナウイルス感染症流行の社会的・人口的なインパクトを報告・議論するもので、オンラインがあたりまえとなったからこそ実現可能となった有意義な会合であった。またカリフォルニア在住のチェン氏の報告は米国における反アジア人意識と格差についてのもので、米国と台湾をはじめとしたアジアとの強いつながりの光と影を示したもので、興味深かった。大会の内容は<https://pao2021.paotw.org/>に掲載されている。(林 玲子 記)

アメリカ人口学会2021年大会

アメリカ人口学会2021年大会(Population Association of America 2021 Annual Meeting)が5月5日~8日の日程で開催された。本大会は昨年の2020年大会に続き、COVID-19の蔓延防止対策の一環としてオンライン開催となった。オーラルセッションは計288あり、このうちフラッシュセッションが計18、招待講演セッションが計22であった。また、ポスターセッションは7つあり、計734の研究が報告された。

当研究所からは釜野さおり（人口動向研究部第2室長）、余田翔平（人口動向研究部第3室長）、菅桂太（人口構造研究部第1室長）、筆者の4名が参加し、以下の研究発表を行った。

- Daiki Hiramori, Saori Kamano and Takeyoshi Iwamoto "Are All of the "Undecided" Sexual/Gender Minorities? A Queer Demographic Analysis of an Experimental Study to Improve Sexual Orientation and Gender Identity (SOGI) Questions"
- Man Yee Kan, Muzhi ZHOU, Kamila Kolpashnikova, Ekaterina Hertog, Shohei Yoda and Jiweon Jun "How Do Elderly People Spend Their Time? Gender Gaps and Educational Gradients in Time Use in East Asian and Western Countries"
- Keita Suga "Lowest-Low Fertility in Singapore: Current State and Prospects"
- Takashi Inoue and Nozomu Inoue "An Evaluation of the Risk of Becoming Uninhabited at the Small Area Scale by Logit Models: Using Projected Population of Japan"

なお、2022年大会は米国ジョージア州アトランタで4月6日～9日に開催予定である。

（井上 希 記）

第32回 REVES 国際会議

2021年5月26日（水）～28日（金）、オンラインで第32回 REVES 国際会議がオンライン開催された。REVESとは、フランス語で「夢」であるが、Réseau Espérance de Vie en Santé（健康寿命ネットワーク）の頭文字をとったものであり、欧米の健康寿命研究者を中心に1995年に結成され、その後ネットワークを世界に広げ、定期的に会合が開かれている。昨年は中国・杭州で開催予定であったが新型コロナウイルス流行により延期され、今回のオンライン開催となったものである。日本を含めたアジア、アメリカ、ヨーロッパからの参加者があるため、開催時間は日本時間22時から24時までの2時間と短く、3日間かけて行われた。

筆者は、別府志海・社人研室長、尾島俊之・浜松医科大学教授、齋藤安彦・日本大学教授との共著で、国立社会保障・人口問題研究所「生活と支え合いに関する調査」に含まれる、国際的に広く用いられている日常生活の支障に関する質問（GALI）を用い、健康寿命の国際比較に関する報告を行った。この報告はピッチ・セッションで行ったが、これはスライド1枚、3分の報告が総勢15名により行われる、という形式である。会議時間の制限によりとられた解決策ではあるが、逆に多くの報告が短時間で要点のみ聞ける、という意味で新鮮であり、報告者が壇上に上がる時間などを考慮しなくてもよいオンラインならではの形式であった。

健康寿命に関する会議ではあるが、新型コロナウイルス感染症の影響に関する報告はなく、教育と健康や、健康寿命算定の方法論などの報告などが目立った。会議の内容は<https://www.reves2021.org/>に掲載されている。

（林 玲子 記）

日本人口学会第73回大会

日本人口学会第73回大会は、2021年6月5日（土）～6月6日（日）に東京大学を開催校・共催としてオンラインで開催された。大会プログラムは以下の通りである。第1日には「生物人類学にお